

第78回 国立病院総合医学会(大阪)発表

第78回 国立病院総合医学会発表

外来副看護師長 救急看護認定看護師 當田 晶子

今回「ハイブリットな災害訓練の効果と当院の課題」と題して、当院の災害訓練について発表させて頂きました。訓練を振り返ることで課題が明確になり、私自身も多くの学びを得ることが出来ました。訓練には、病院長はじめ多部門の職員が参加しました。災害に対する危機感を個人で持ち続けるのは困難です。今後も、災害への備えとして病院全体での定期的な訓練が必要と考えます。



浜田医療センターでのタスクシフト/シェア

診療看護師 田向 宏和

医師は外来及び特殊検査、入院患者対応、救急対応と様々な業務に従事している。当院の診療看護師(NP)の活動は、医師と協働しながら救急外来での初期対応や入院中の患者さんの状態変化時の対応、カテーテル

検査の助手など幅広く活動している。医師の業務の一部をタスクシフト/シェアすることにより、患者さんに安全でタイムリーな医療を提供できる。当院でどのようなタスクシフト/シェアを行っているか報告会で報告した。

第78回国立病院総合医学学会の発表(ポスター部門)を経験にして

放射線科照射主任 船田 典宏

10月18日・19日、大阪グランキューブで開催された第78回国立病院総合医学学会の発表(ポスター部門)に参加しました。発表内容は、放射線治療機器更新に伴い導入された光学式体表面トラックキングシステムCatalystの使用経験についての発表でした。発表前に緊張していましたが、徐々に慣れてきて、丁寧に落ち着いて発表を行うことができました。

しかし、内容を詰め込みすぎて時間をオーバーしてしまったことが今回の反省点でした。機会があれば今後も学会等に参加したいと思います。

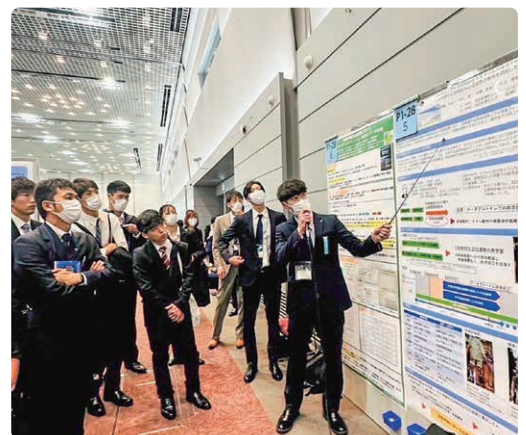


国立病院総合医学会に参加して

理学療法士 伊藤 裕太

この度、初めて国立病院総合医学会へ参加させて頂きました。まだまだ至らない点がありますが、試行錯誤しながら臨床で実施したことを発表することで、自分の普段から行っているリハビリに多少なりとも自信を持つことができました。

また、学会期間中に他施設の方と話しをする機会も多くあり、各施設の取り組みやプライベートに近い話など普段聞けないことも聞くことができ、非常に有意義なものになりました。また、参加しようと思います。



パネルディスカッション 「看護学校で活用している、活用したいIT」

教育主事 藤井 光輝

10月19日(土)に学校長協議会パネルディスカッションで発表、ディスカッションを行いました。本校は様々なIT(Information Technology:情報技術)を活用して講義や演習などが行われています。本校で活用されているITについて学会で発表した内容の一部をご紹介します。

1. 合同カリキュラムにおけるITの活用

本校は国立病院機構のネットワークを活かして科目の21%を3校(島根-山口-広島)合同カリキュラムで運用しています。オンライン授業やオンデマンド授業を併用しながら専門的な講師による講義が行われます。講義内では、他校と意見交換を交わす科目もあり学びを深化させています。講義内容は録画して学習支援システムに掲載するため、再度閲覧するなど授業の振り返りができるようになっています。合同カリキュラムにより講師の負担も分散され働き方改革に貢献します。

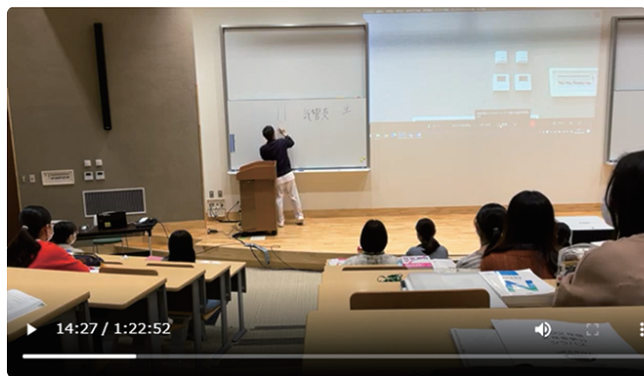


図1 合同カリキュラム授業の録画された動画

2. 先端IT機器やアプリケーションの活用

本校では、電子テキストを授業のほか臨地実習の場でも活用しています。分厚く数十冊のテキストを持ち歩くことはできません。しかし、電子テキストならタブレットにデータが全て入り検索や画像閲覧もわかりやすく、すぐ調べて理解するという点では重宝します。

演習では、今年度選定された厚生労働省DX促進事業の一環で図2のように教員がスマートグラスを着用して看護師や患者役となり演じることでリアルタイムに看護師・患者視点の映像が各学生端末に配信され疑似体験できるシステム運用をしています。その映像はオンタイムで保存され支援システムで振り返り閲覧ができます。

チャット機能も追加しました。授業内で学生は疑問をチャットで入力。疑問点を確認して講師が解決へと導きます。この事業は検証後に全国公表します。学会では、現時点でのシステム開発や使用状況をお話ししました。また、アプリケーションでは何かと話題のチャットGPTの可能性として国家試験対策問題を個の特性に合わせて作成する方法を話しました。

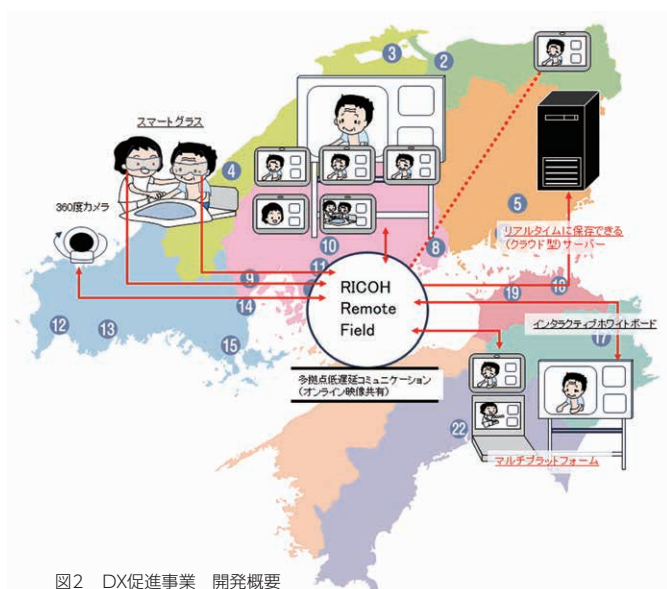


図2 DX促進事業 開発概要

ディスカッションでは、3校合同カリキュラムのような運用が全国にある国立病院機構の学校に波及して運用できる可能性はあるかなど意見交換しました。

IT機器は非常に便利です。しかし、扱いや考え方を間違えるとマイナスに向かうものです。IT機器の活用は教育や看護の対象である人と向き合う時間を捻出するためのものだと考えています。浜田の地域で実際に人と触れ合う大切さとともに最先端のIT技術も用いながら看護師にとって必要な知識や豊かな人間性を身につけられる教育に努めていきたいと思います。

骨折リエゾンチームにおける 二次性骨折予防の取り組み

医療ソーシャルワーカー (MSW) 山本 悠策

私は「当院の骨折リエゾンチームにおける二次性骨折予防の取り組みについて」の演題でポスター発表を行いました。当院の取り組みに対して質疑応答で、「地域連携パスがありますか」と興味をもった質問もあり、地域とどのように今後協働していくか、チームで具体的に考えていく必要があると感じました。

また、他病院の発表で当院とは違う地域事情での様々な取り組みを聴き、得るものが多くありました。全国の皆様からいただいた刺激を糧に、これからの業務に活かしていきたいと思います。発表やその準備等、関わっていただいた皆様ありがとうございました。



ご家族へ説明・介入する取り組みを 2題発表

入退院サポート 三澤 綾 / 田向 幸

入院・退院サポートコーナーでは、入院予定の患者さんに、現在の生活についてお話を伺い、入院生活や退院に向けての準備、退院後の生活について予測しながら、入院前にお話しを伺っています。

今回、国立病院総合医学会において、患者さんの入院から退院までの不安を少しでも解消し安心して入院を迎えていただくための患者さんやご家族へ説明・介入する取り組みを2題発表しました。また、他院での取り組みを知ることができ、学びの多い学会となりました。なんと、今回の発表ではポスター賞もいただき、皆で日々の頑張りを認め合い、泣いて喜び合いました♪

まだまだ入院・退院サポートコーナーをご存じない方もおられると思います。入院までの時間をより安心して過ごしていただけるようにお話しさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

